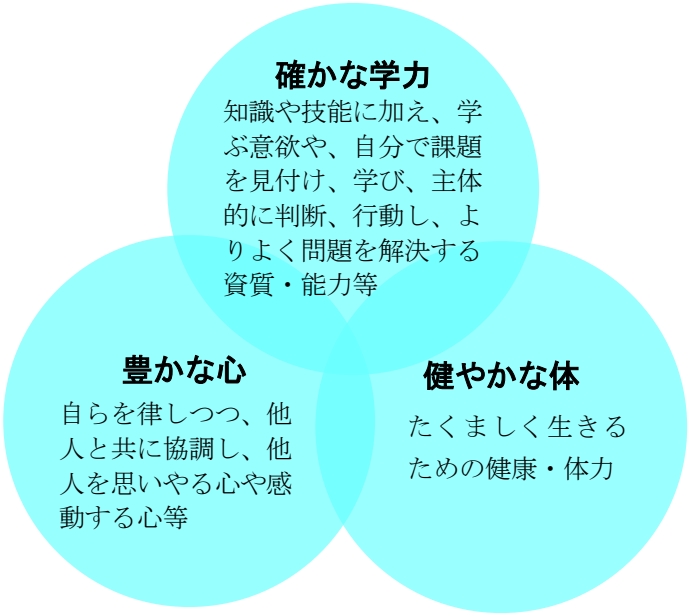
3　生　き　る　力

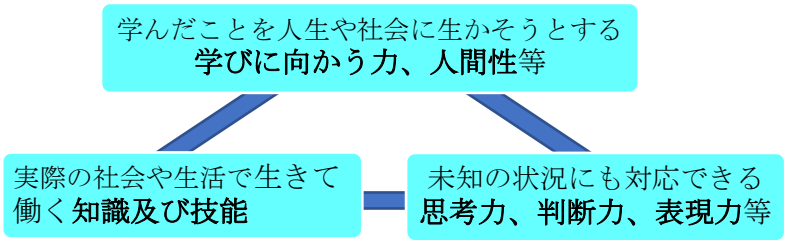
21 世紀は、「知識基盤社会の時代」ともいわれ、情報化やグローバル化など社会的変化が人間の予測を超えて、より加速度的に進展している。また、人工知能（AI）等の先端技術が高度化した Society5.0 時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものが、劇的に変わる状況が生じつつある。

このような「複雑で予測困難な時代」においては、社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に関わり合い、多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓（ひら）き、未来の創り手となることができる力が、求められている。

このために必要となるのは、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」からなる、「生きる力」である。この「生きる力」の育成を支える三つの資質・能力が、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」である。



【「生きる力」を構成する要素】



【「生きる力」の育成を支える資質・能力】

確かな学力

「生きる力」を「知」の側面から捉えたものが「確かな学力」である。習得した基礎的･基本的な知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めることが重要である。

また、確かな学力の育成は、単元や題材等の内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、実現が図られるものである。しかし、これまでと全く異なる指導方法を導入する必要はなく、これまでの教育実践の蓄積をしっかり引き継ぎつつ、授業を工夫・改善することが大切である。

【確かな学力】

○　言語活動等、学習の基盤をつくる活動を充実しよう

(1)　言語活動の充実

思考力、判断力、表現力等の基盤となるのは、言語に関する能力である。言語は知的活動(論理や思考)やコミュニケーション、感性・情緒の基盤である。また、言語活動は、幼児児童生徒の言葉の世界を広げ、自らの考えを深めることにつながっていく。国語科を要とし、それぞれの教科の特質に応じた言語活動や読書活動を充実させる必要がある。

言語に関する能力を高め、思考力、判断力、表現力等の育成を効果的に図るために、以下のような言語活動を意図的に行うことが大切である。

○　体験から感じ取ったことを表現する。
　（例）日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体等を用いて表現する。
○　事実を正確に理解し、伝達する。
　（例）身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する。
○　概念・法則・意図等を解釈し、説明したり、活用したりする。
　（例）養殖漁業について、生産に携わる人々の話や資料から工夫や努力に気付き、生産者の意図を解釈して説明する。
○　情報を分析・評価し、論述する。
　（例）図書館の貸出し本について、季節や天候、利用者の年齢・性別等と、貸出冊数の増減や人気の傾向を関連付けて分析し、発表する。
○　課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。
　（例）木材を使った本立ての製作に向けて構想を練り、創作活動を行い、その結果を評価し、工夫･改善する。
○　互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。
　（例）地球温暖化に伴う自然環境の変化について、対話やディベート等の形式を用いて議論を深め、よりよい解決策を考える。

（「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】【中学校版】」平成 23 年 10 月　文部科学省）

(2)　学習の基盤となる資質・能力の育成

幼児児童生徒の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成する。

幼稚園においては、「遊び」を中心に、その後の学びにつなげていくことや豊かな創造性を養うことが大切である。

小中学校においては、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図ることが大切である。

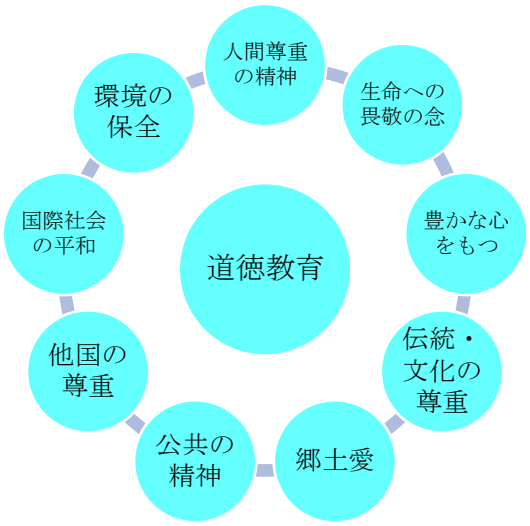
(3)　学習習慣の確立

児童生徒の学習習慣を確立することは、その後の生涯にわたる学習に影響し、極めて重要な課題であることから、家庭との連携を図りながら、家庭での学習課題を適切に課したり、発達段階に応じた学習計画の立て方や学び方を促したりすることが大切である。

豊 か な 心

「生きる力」を「徳＝心」の側面から捉えたものが「豊かな心」である。昨今、家庭等による教育力が低下し、生活習慣の確立が不十分であったり、情報環境等が劇的に変化し、大人や異年齢の幼児児童生徒との交流の場や、自然と関わる体験等が減少したりしている。このような中、自信がもてず、人間関係をうまくつくることができなかったり、自分の将来に不安を感じたりする幼児児童生徒が増加している。

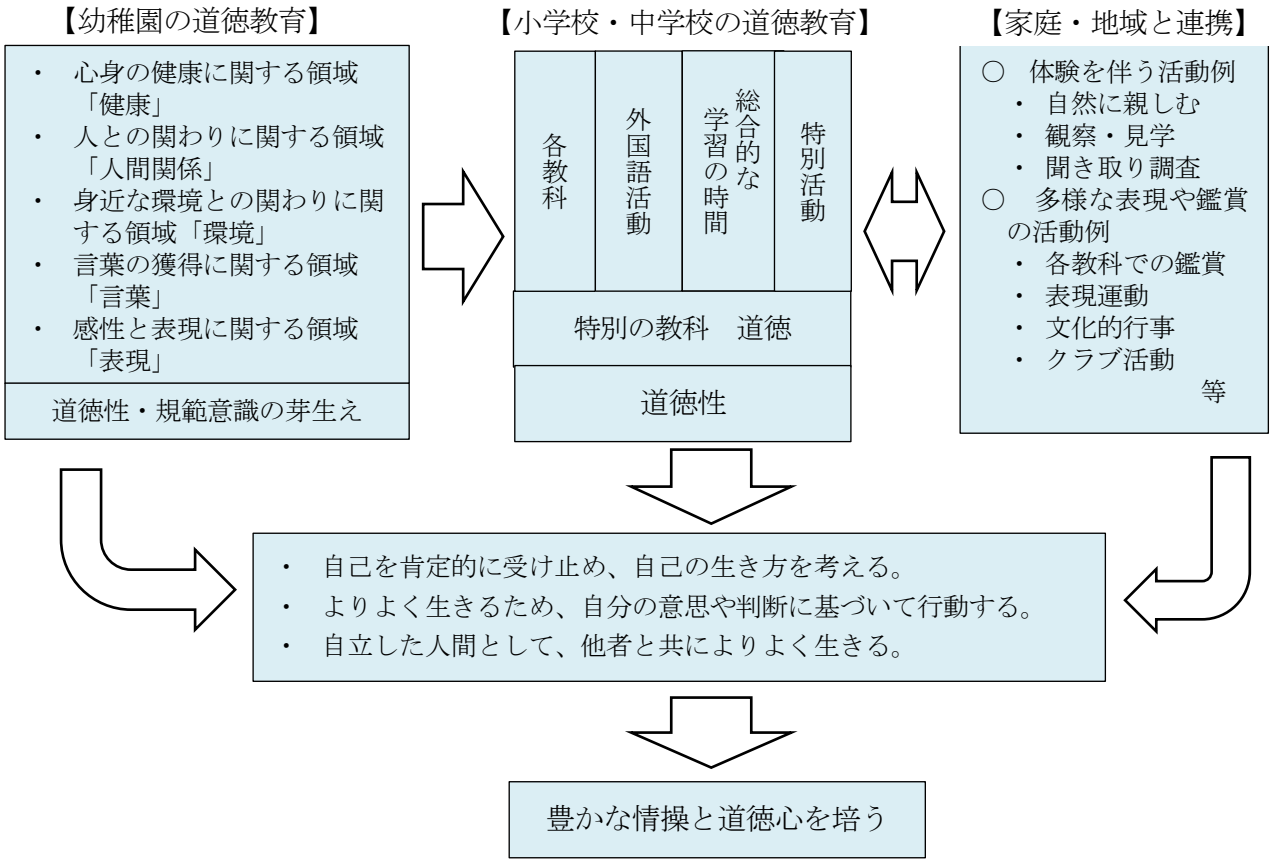
未来を拓(ひら)く主体性のある幼児児童生徒の育成のためには、道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動を通して、「豊かな心」を育むことが大切である。



【要となる道徳教育の留意点】

○　幼児児童生徒の心に響く道徳教育や豊かな体験活動や表現・鑑賞の活動を推進しよう

幼児児童生徒が、生命の有限性や自然の大切さ、主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性等を実感しながら理解することや、規範意識等を身に付けることが重要である。幼稚園・学校教育の場を生かして、家庭や地域社会と連携しつつ、体系的・継続的に道徳教育を行うことや体験活動、表現・鑑賞の活動を実施していくことが大切である。



愛知県教育委員会道徳教育総合推進サイト「モラルＢＯＸ」（義務教育課Ｗｅｂページ掲載）の実践事例を活用するなどして、道徳科はもとより、日常の道徳教育の充実を図る。

健 や か な 体

「生きる力」を「体」の側面から捉えたものが「健やかな体」である。体力は、人間の活動の源であり、健康の保持のほか、意欲や気力といった精神面の充実に大きく寄与する要素である。

幼い頃から体を動かし、生涯にわたって積極的に運動に親しむ習慣や意欲、能力、体力の育成

自己の心身の成長発達についての正しい理解

望ましい食習慣や安全に関する教育の充実

- 心身ともに健康で安全な生活
- 豊かなスポーツライフの実現

○　教育活動全体を通じて、安全な生活や健康の保持増進のための実践力を育成しよう

幼稚園・学校生活、家庭や地域社会において、次に挙げる健康や安全、食育を考慮し、よりよい生活を送るための基礎を培うことが大切である。

心身の健康の保持増進に関する指導	安全に関する指導	食育の推進に関する指導
・体力の向上を図る実践力の育成 ・基礎的な身体能力の育成 ・運動系のクラブ活動 ・運動会、体育大会 ・遠足 ・様々な健康情報や性、薬物等に関する情報に対する適切な行動選択	・身の回りの生活の安全 ・交通安全 ・防災に関する意識 ・情報技術の進展に伴う新たな事件・事故防止 ・非常時の対応 ・安全に関する情報への正しい判断、行動	・食に関する正しい知識 ・望ましい生活習慣の育成 ・食生活の指導 ・自然の恩恵、勤労等への感謝 ・多様な食文化の理解 ・給食の時間を中心とした指導
・体力テストの活用 ・地域の関係機関･団体と協力	・「あいちの学校安全マニュアル」の活用	・栄養教諭、栄養職員の専門性の活用 ・給食の教育的効果の活用

- 教育活動全体を通じて行うことによってより一層の充実を図る。
- 家庭や地域社会における日常生活においても実践されるように促す。